

河西便り

1月号

2025.1.17 河西中学校



<2025年は昭和100年!>

2025年、令和7年が明けました。今年が昭和でいうと、昭和100年になります。昭和100年とはいえ、大正15（1926）年12月25日に大正天皇が亡くなり、即日改元で、その日に昭和元年になりました。1926年12月25日は大正15年であり、昭和元年ということになります。昭和元年は僅かに1週間でした。昭和天皇が昭和64（1989）年1月7日に亡くなり、翌日改元で1月8日から平成元年になりました。昭和64年も1週間でした。ですから昭和は64年間というより、実質は62年と最初と最後の2週間ということになります。

3学期は、3年生は卒業に向けての人生における岐路の時期、1・2年生はそれぞれ進級に向けて、ラストスパートの時期であり、改めて「進路」について考えてみると・・・

「世に生を得るは事をなすにあり」とは幕末の坂本龍馬の有名な言葉です。これは、人間、生まれたからには大きな仕事を一つ仕上げようという意味です。これから皆さんがどういった目標をもって人生を生きるかが問われています。

また、歌人の九条武子の言葉に「自分の生命を打ち込むことの出来る仕事を、もっているものは幸福である。そこに如何なる苦難が押し寄せようとも、たえざる感謝と新しき力のもとに生きてゆくことが出来る。生命は仕事とともに不滅である」自分のやりたいことが見つかって、そのことに一生懸命に打ち込むことが大事です。自分が打ち込むことの出来るものを見つける、そのきっかけだけでもいいから、本校の生活の中で見つけてください。

勉強という文字について考えてみましょう。勉強の勉は訓読みでは「つとめる」と読みます。強はしいるとも読みます。勉強とは「つとめてしいる」ことという意味にもなるでしょう。中学生、高校生、十代の時期は自分自身で「つとめてしいる」時期ではないでしょうか。この場合、勉強・学習だけではありません。部活動やほかの活動等、様々な学校生活で、自分で自分に対して「つとめてしいる」。そうし

ないと成長できません。中学・高校の時期になるべく沢山の経験をしてほしいと思います。「二兎を追うもの一兎も得ず」という言葉があります。二つのことを同時進行で行うと、両方とも得ることができないという意味ですが、この時期には「二兎を追う」ことも必要です。学習も部活動も併せて「二兎を追う」、あるいは他も加えて「三兎を追う」、この時期だからこそできるのです。「つとめてしいる」その結果、得るもの成長することは大きいと思います。大いに期待したいものです！

<南館被害側校舎の外壁工事について>

昨年、南館東側校舎の外壁工事が行われていましたが、校舎を囲んでいた足場も取り除かれ、リニューアルした校舎が朝日に映えています。



<3学期の主な行事予定>

- | | |
|------------|------------------|
| 1月下旬 | 3年生学年末テスト |
| 2月上旬 | 和歌山私学学力検査 |
| 2月上旬 | 3年生懇談（公立） |
| 2月中旬 | 大阪私学学力検査 |
| 2月17日 | 和歌山公立高等学校一般出願 |
| 2月下旬 | 1・2年生学年末テスト |
| 2月26日27日 | 和歌山公立高等学校本出願 |
| 3月7日 | 卒業式 |
| 3月10日（11日） | 和歌山公立高等学校入学者選抜検査 |